

## 第7回一関市水道事業経営審議会会議録

- 1 会議名 第7回一関市水道事業経営審議会
- 2 開催日時 平成28年3月24日(木)午後2時30分から午後4時まで
- 3 開催場所 一関保健センター多目的ホール
- 4 出席者
  - (1) 一関市水道事業経営審議会委員 11名  
二階堂満委員(会長)、阿部節子委員、石川トシエ委員、海野正之委員、  
江口扶委員、金野幸造委員、金野健男委員、昆野洋子委員、齋藤祥三委員、  
鈴木東委員、鈴木美感子委員  
※欠席委員 5名  
阿部弘子委員、及川豊委員、千葉淳委員、千葉とき子委員、三浦富久子委員
  - (2) 市出席者  
菅野佳弘上下水道部長、金田賢上下水道部次長兼水道部次長、  
千葉隆水道部次長、佐藤隆博下水道課長、千葉彰千厩支所建設水道課長、  
榊原勇東山支所建設水道課長、北條敏方室根支所次長兼建設水道課長、  
齋藤祐二川崎支所建設水道課長、熊谷善孝業務課長補佐兼経理係長、  
小島宣浩給水課長補佐兼工務係長、大山健治水質検査係長、  
畠山勤花泉支所建設水道課長補佐兼上下水道係長、  
佐藤雅弘大東支所建設水道課長補佐兼建設係長、  
山口晴伸藤沢支所建設水道課長補佐兼上下水道係長、小野寺勝也主査、  
金野亨主任主事、千葉麻理子主事
- 5 審議事項  
一関市水道事業ビジョン答申案について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 なし
- 8 挨拶  
会長

これまで6回にわたって水道事業ビジョンについて審議いただいていた。

人口減少、施設の老朽化、水道事業の経営的な部分の課題など課題が山積しているが、その中で委員の皆さんから有益なご意見をいただきながら、前回の審議会で水道事業ビジョンの素案ができた。

今回は、水道事業ビジョンの審議としては最後の審議会となるが、素晴らしい水

道事業ビジョンができるように忌憚のないご意見をいただき、水道事業ビジョン案として、答申したいと考えているのでよろしくお願いしたい。

## 9 審議内容

一関市水道事業ビジョン答申案について

事務局から資料に沿って説明を行い、質疑・意見を求めた。

### 【質疑・意見等】

委員 概要版の「Iの1.策定の目的」は、水道事業の意義を示している部分であるため、省略せずに一関市水道事業ビジョン（案）の7ページ後段にある表現をそのまま転記したほうが良いのではないか。

事務局 そのように修正する。

委員 一関市水道事業ビジョン（案）の16ページから19ページに「類似団体」とあるが、これについて、注釈を加えたほうが良いのではないか。

事務局 そのように修正する。

委員 概要版の「V 将来像の実現にむけて」と「VI 主な取り組み」の関連はどのようなものか。

事務局 「VI 主な取り組み」は、「V 将来像の実現にむけて」から特に重要なものや新規の取り組み、審議会で審議いただいた内容をピックアップして掲載したもの。分かりやすい表現に修正する。

委員 概要版の「V 将来像の実現にむけて」は、あまりにも字数が多すぎる。もう少し簡単にできないか。

事務局 表現を工夫したい。

委員 一関市水道事業ビジョン（案）の16・17ページと19ページの棒グラフは、収益の色を統一したほうが分かりやすいのではないか。

事務局 そのように修正する。

委員 一関市水道事業ビジョン（案）の22ページの水道接続率では、簡易水道分でかなり低い状況にあるようだが、その原因は。

事務局 簡易水道未普及解消事業の着手に当たっては、地域の住民の皆様の要望によって着手するが、事業の推進に当たっても、新たに簡易水道を使用するための給水装置工事を共同で行うために簡易水道利用組合を組織していただくなど、接続率の向上に向けた取り組みを行っている。ただし、配水管を整備しても、配水管から住家まで距離があり、水道に接続する費用が高額になるなどの理由によりなかなか接続していただけない状況もある。

委員 水道に接続する費用が高額になるのは分かるが、そこまで納得してもらった上で未普及解消事業を行ったのではないのか。とにかく、接続率が低い状況が続けば経営に与える影響も大きいと思う。今後は、水道が整備された場合は、必ず接続するという確約がなければ、新規の整備は行うべきではないと思う。

委員 関連して伺うが、配水管を布設する基準は、末端に2戸の住宅があれば配水管を布設するというルールでやっているか。

事務局 平成17年合併以降は、末端に2戸の住宅があれば、配水管を布設するというルールで事業を実施している。

委員 一関市水道事業ビジョン（案）の19ページのグラフを見ると、企業として考えた時に、借金の多さが気になるが、一方で、16ページの収益性の面では利益が出ているように見えてしまっている。市民の方々に危機的状況が伝わるように、もう少し良い見せ方はないか。

事務局 利益の計算には、水道料金以外で一般会計からの補助金などの要素があることから、利益が多く見えてしまっている。しかし、この利益の計算方法は他の団体と比較するため、統一的な方法によって計算していることから、計算の方法は変えられないものである。しかしながら、経営の危機的状況を市民の皆さんに理解してもらうことは重要なことであるため、表現の仕方を工夫する。

委員 今回の水道事業ビジョンへの掲載を望むものではないが、水道接続率向上のために、飲用井戸等整備事業補助金制度のように水道接続費用に補助金を交付するという方法はどうか。

事務局 その方法をとれば、一定程度の効果が期待できるかもしれないが、これまで全て自費で100m、200mの給水管を設置してきた方との公平性の問題もある。検討させていただく。

委員 概要版は、全世帯に配布されるものか。

事務局 水道事業ビジョン本体は、ホームページで公表するとともに、各支所・各市民センターにも配架する予定。水道ビジョンの概要は、水道広報紙で周知する予定。

委員 この審議会の審議を通じて、水道事業の危機的状況を委員全員で共有したと思うが、概要版の4ページでは「収益性の面では概ね健全」とある。この部分について、市民の皆さんに健全だと勘違いされないような工夫が必要ではないか。

事務局 収益性の面では、水道事業会計は確かに健全な状態だが、簡易水道事業会計は、一般会計からの繰出金で収支の均衡を図っている状況である。全体として、経営の危機感が伝わるように表現を工夫する。

委員 接続率の問題については、経済的な面から接続できない家庭もあると思うが、簡易水道未普及解消事業の着手に当たっては、接続の確約をとるなり、具体的な取り組みが必要だと思う。

委員 水道事業の危機的状況を受けて、市民が何をすればいいかが伝わってこない。この部分が曖昧なような気がする。危機的状況なので、料金が上がることを受け入れて欲しいという意味なのか。水道事業という公的な部分と企業的な部分を併せ持った微妙で複雑な状況の中では、市民にとって分かりづらいものになっているのではないか。

事務局 水道事業の経営を成り立たせるためには、基本的には3つくらいしか方法がないと思っている。一つ目は、経費を減らすこと。二つ目は、接続率を上げることや料金を上げることなど収入を増やすこと。三つ目は、市の一般会計から補助金をもらうこと。これは、水道を使用していない市民の方の税金も入っていることから、その前提として、水道料金が上がっていくという状況をご理解いただくことと、水道というインフラに税を投じて維持していくということをご理解いただかなければならない。これが大きな課題となっているが、現状でこれをはっきり言えない部分もあるため、このような表現にとどめている。

委員 水道料金を値上げしないとやっていけなくなることは確実である。料金値上げをするには、この危機的状況を市民に理解してもらうことが重要。

委員 企業債に頼った経営状況であるが、いずれこれの償還が嵩んでくることは目に見えている。その償還は、水道使用者が公平に負担するしかない。そのためには料金値上げが必要である。そのとき、料金値上げを市民に理解してもらえるか。その伏線がこの水道事業ビジョンだと私は理解している。

委員 しかし、やはり料金値上げの前に経営努力が重要だと思う。

委員 平成28年度末に水道事業と簡易水道事業の統合を予定しているが、経営統合後の見通しがわからないから危機的状況が伝わってこないのではないか。

事務局 一関市水道事業ビジョン(案)の中には記載がないが、第3回審議会資料の中で施設更新需要の増加と併せた財政シミュレーションを行い、統合影響についてもシミュレーションをしている。経営統合のみであれば、国からの地方交付税交付金等によって経営的には乗り切れると思うが、施設更新需要

の増加が経営的には大きな課題である。一関市水道事業ビジョン（案）の中では、3年から5年を目処に料金を見直すこととしているが、施設更新需要の増加に伴う料金値上げについては、今回の水道事業ビジョンで明確に示すところまでは至らなかった。

委員 概要版の7ページの危機的状況について、どの部分が危機的なのかが伝わってこない。「水道事業経営の危機」という表現ではどうか。

事務局 表現を工夫したいと思う。

10 答 申 一関市水道事業ビジョン（案）について、二階堂会長から市長（代理：上下水道部長）に答申が行われた。

11 上下水道部長あいさつ

一関市水道事業ビジョンの答申をいただきありがとうございました。これまで7回にわたって審議会を開催いただき、活発な意見・情報交換をいただきながら、人口減少による給水量の減、それに伴う収入の減などを見据え、非常に困難な課題について慎重な審議をいただいたと思っている。今後は、いただいた答申の内容を一関市議会の建設常任委員会に対して説明し、年度内に策定したいと考えている。皆様方のこれまでのご尽力に深く感謝を申し上げ、御礼とさせていただきます。

12 その他

平成28年度一関市水道事業会計予算について  
事務局から資料に沿って説明（質疑・意見なし）

13 担当課 水道部業務課